

東京の まちづくり

特集1 連続立体交差事業推進中
～踏切がなくなる、渋滞がなくなる、まちが変わる～

特集2 水辺にぎわいの創出～両国リバーセンター～

用地特集 都市づくりの第一歩！～東京都の用地取得～



連続立体交差事業 推進中

都内には、約1050箇所の踏切が存在
そのうち200箇所以上が「開かずの踏切」



～踏切がなくなる、渋滞がなくなる、まちが変わる～

連続立体交差事業とは???

道路整備の一環として、鉄道を一定区間高架化または地下化し、多数の踏切の除却と交差する道路との立体化を一挙に実現する都市計画事業です。

令和2年度には、第32回全国街路事業コンクールにおいて、小田急小田原線の連続立体交差事業が国土交通大臣賞を受賞しました！

渋滞解消で人とモノの流れがスムーズに

地域分断解消により賑わいのあるまちに

ストック効果



問い合わせ先

建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 TEL: 03-5320-5331

ジャイアントケルプを海中で支えるからだのつくり

葛西臨海水族園 飼育展示係 八木花乃香

北アメリカの西海岸などで見られるジャイアントケルプは、長さ60メートル以上に成長する世界最大の海藻です。こんなに大きなからだを、海の中でどのようにして支えているのでしょうか？

そのためのからだのつくりのひとつが、根元にある「仮根(かこん)」です。細かい網目状をした仮根は、同じ海藻であるコンブやワカメの仮根と同様、岩の表面に放射状に広がり、自らをしっかりと固着することで、波に流されたり倒れたりするのを防いでいます。ただし、陸上の植物の根とはちがって栄養や水分を吸収することはできません。そのかわり、からだ全体で海水中から吸収しています。

ふたつめは「気泡」です。葉の付け根にひとつつついていて、中は空洞で気体が入っています。これが浮力となり、大きなからだを水面に向かってまっすぐ立たせることができます。また、まっすぐ立つことで、からだ全体が海中に大きく広がり、海中の栄養や水分を吸収しやすくなるとともに、太陽の光を受ける面積が増えて光合成を行いややすくなります。

葛西臨海水族園では、このジャイアントケルプを「海藻の林」水槽で展示しています。現在展示しているものは、2020年10月に新たに導入しました。長さはおよそ5mほどですが、これからどこまで成長するのか楽しみです。ご来園の際にはその大きさだけではなく、からだのつくりにも注目しながら観察してみてください。



動物園の“かお”
葛西臨海水族園
オウサマペンギン



春から秋にかけて屋内で避暑をしていたオウサマペンギンを、屋外展示場でご覧いただけます。